

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!
 -サービス向上への3ステップ-“愛媛県地域密着型サービス評価”

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105677		
法人名	有限会社 司		
事業所名	グループホーム 司		
所在地	〒799-2401 松山市浅海原甲405 (電話) 089-995-0399		
管理者			
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	4月23日	評価確定日	6月15日

【情報提供票より】 (平成19年4月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 18年 3月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤7人, 非常勤9人, 常勤換算4人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (4月13日現在)

利用者人数	16 名	男性 7 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.25 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 あり ・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり なし	指定認知症対応型通所介護
届出 あり なし	短期利用型共同生活介護
加算 あり・ なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美しい瀬戸内海や浜辺が間近に眺められる所に開設のホームである。ホーム内は明るく、ゆったりしていて、海の眺望が楽しめるよう一枚ガラスの窓にするなどの工夫がある。開設して1年経ったホームの職員は、利用者がその人らしく自由に過ごせるよう、また、利用者の趣味や出来ることも大事にした支援を心がけている。地域との交流も少しずつ広がり、深まってきている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)	今回は初回評価のため、前回評価なし。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)	運営者、職員は自己評価の意義を理解し、評価をきっかけに、今までのケアをふりかえり、少しずつ改善に取り組んでいる。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)	運営推進会議ではホームの概要説明、利用者や家族の思い、地域の福祉サービス、地元の行事などについて話し合い、その中からサービス向上に役立つ情報やヒントを得ている。そして、会議で得たもの、感じたことを自己評価やサービスの向上に活かしたり、市との連携のきっかけ作りに繋げたりしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)	利用者の暮しぶりや健康状態等を、定期的および家族の面会時などに報告する中で、家族の思いを聴いたり、家族会、運営推進会議の時に家族の意見を聴取し、ホームの運営に反映させている。苦情相談の窓口はホーム内と外部の公的機関に設け、このことを文書にも明記し、説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)	地元の秋祭りには神輿が玄関先まで入って来たり、近くの小学校の生徒の訪問を受け入れたりして、ホームは徐々に地域の人々との交流を深めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム 司
(ユニット名)	あい ユニット
記入者(管理者) 氏名	二宮 恵里
評価完了日	平成19年5月22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 『満足のいく生活をする為に、個人の自由と尊厳を守り、優しく暖かい心を持って接します』という理念をつくりあげている。 (外部評価) 事業所独自のめざすことを盛込んだ理念をつくりあげている。しかし、その理念の表現がやや抽象的で、日々のケアとも繋がりにくい。	※	利用者が、地域の中でその人らしい生活が継続できるように理念を明確にし、サービスを提供していきたい。 身近に感じられる表現で、利用者が地域の中で暮らしていくことを念頭においた理念であるよう、全職員で検討することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 目のつき易い玄関の入り口に掲示し、重要事項にも記載して明示している。 (外部評価) ホームのリーダーと職員は理念の意図するところを十分理解し、日々のケアと関連づけながら利用者の支援を行なっている。	※	職員会等で、全職員が日々理念に沿った支援ができていくかその都度再確認していく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族に対しては、入居契約時に説明しているが、地域の人々に対しては浸透できていない。	※	地域の人々にも事業所のことを知ってもらえるような取り組みを事業所内で話し合い、積極的に行っていきたい。
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などで通りかかったら挨拶をしたり、買い物等での関わり程度で、気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	※	近隣の方に気軽に立ち寄ってもらえるように、散歩等で関わる機会を利用して、声をかけるなど工夫をして努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) なかなか地元の人々と交流する機会を設けていない。 (外部評価) 秋祭りには神輿が玄関先まで来たり、近くの小学校の生徒の訪問を受け入れたりして、徐々に地元の人々との交流を深めている。	※	地区の学校や公民館等に挨拶に訪問し、積極的に行事等に参加したり参加してもらえるように交流していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方々と、交流する機会をなかなか設けていない。また、そのような話し合いもスタッフ間でできていない。	※	地域の方々との交流の機会を増やし、地域に貢献していけるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者、職員が、サービス評価を受ける意義を理解し、日々の運営状況を評価項目を参考に見直し、運営者と職員が話し合い、改善できる点は改善している。 (外部評価) 運営者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価をきっかけに今までのケアを振り返り、改善に取り組んでいる。	※	サービス評価を機に、改善できる点は改善していき、閉鎖的にならないよう、外部からの評価を参考に、運営者、管理者、職員が一丸となって、より良い運営をしていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、家族や地域の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 2か月に1回運営推進会議を行ない、話し合いの中からサービス向上に役立つ情報やヒントを得ている。次の会議では今回の評価について報告する予定である。		運営推進会議を活用して、サービスの向上に繋がったり、地域や市町村との関わりも深めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月ある地区のサービス調整会議に出席している。 (外部評価) 運営推進会議の他、月1回のサービス調整会議に出席し、市と行き来する機会づくりを心がけ、共にサービスの向上に取り組むと考えている。		今後も毎月地区のサービス調整会議に出席していき質の向上に取り組んでいきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が制度に対して理解はできてはいない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が制度に対して理解し必要な場合には活用出来るようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について、全職員が理解しており、事業所では虐待について防止できている。しかし、高齢者虐待防止関連法について、全職員が認知できてはいない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が高齢者虐待関連法について理解していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に家族や利用者に会い、入居対象者であるか検討し、家族に入居申請の説明をして理解・納得を得ている。		家族や利用者にとって分かり易い説明を行うように心掛け、その都度不安や疑問などはないか確認をして、理解・納得を図っていききたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が個々に信頼しているスタッフに、意見、不満、苦情等を伝えている。	※	玄関等に相談箱等を設置して、気軽に利用者が意見、不満、苦情等を表せるようにしていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 事業所で預かっている金銭に関しては、こづかい帳を作成して家族の方に定期的に報告している。健康状態等は、面会に來られた際や電話、毎月利用料や行事表を送る際に報告している。	※	事業所での便りを作成して、利用者の暮らしぶりや健康状態などを毎月報告できるようにしていきたい。
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は、定期的及び家族の面会時、行事表を送る時などに報告している。	※	金銭管理の報告は、金銭出納帳を家族に渡すのではなくホームで出納帳を管理し、家族にはコピーで報告するなどの工夫を期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開いたり、無記名のアンケートを郵送して、意見、不満、苦情等を聞いている。また、苦情相談機関を、事業所と外部に設けている。	※	家族が気軽に意見や不満等を表せるように、事業所内に意見箱を設置したり、家族会などの機会を設けていきたい。
			(外部評価) 家族等の意見は家族の面会時、家族会、運営推移会議、アンケート等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口をホーム内と外部に設け、重要事項説明書に明記し、説明している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、日々職員と関わる機会を設け、意見や提案を運営に反映させている。	※	職員が、運営に関して意見や提案を言い易い機会を設けていき、運営者や管理者は運営に反映せせるようにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状態や生活のペースに対応出来るように、職員間で話し合い勤務を組んでいる。		利用者や家族の状態や要望に柔軟に対応ができるように、その都度職員間で話し合っって勤務を組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) やむをえず職員等が離職する場合には、後任に引き継ぎを行い、利用者や業務に影響を及ぼさないように努めている。 (外部評価) 運営者は馴染みの職員がケアすることの大事さを承知して、職員の異動や離職を最小限にするよう努めている。交代の場合は利用者への配慮を心がけている。		職員等に入れ替わりがある際には、きちんと引継ぎを行い、利用者や業務に影響がないように努めて行きたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加するように積極的に声を掛けたり、希望を聞きいれている。 (外部評価) 外部の研修情報を職員に示し、声かけをしたり、希望を聞いて研修の参加を促している。ホーム内でも勉強会を計画している。	※	受けられる研修には積極的に参加するように情報を通知する。また、事業所内でも勉強会を設けていきたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回の地区のサービス調整会議に出席して、ネットワーク作り、勉強会を行っている。 (外部評価) 地域で月1回行われるサービス調整会議に出席し、他の事業所との交流、情報交換を通じてホームの質向上を図っている。	※	事業所の集まりには積極的に参加していきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、時折業務に参加したり、積極的に職員と関わりを持つようにして、業務での悩みや意見を言い易い環境をつくっている。	※	定期的に親睦会や慰安旅行等を開催して、運営者や職員が気軽に話し合え、ストレスが軽減できる機会を設けていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 業務の合間等に職員と話をし、業務内容、勤務状況、意見等を聞くようにし、働きやすい環境づくりをしている。	※	職員の努力や実績に対して、本人に直接声をかけ称えたり、賞状または賞与を授与していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等ゆっくり時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心して頂けるように努力をしている。	※	利用者にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努力していきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等ゆっくり時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心して頂けるように努力をしている。	※	家族にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努力していきたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族からの思いや悩み等の話を時間をかけて聴き、職員間で今どのような支援が必要なのか話し合っ、対応するように努めている。		本人や家族からの話を時間をかけて聴き、どのような支援を最優先に行うべきか、職員間で話し合っ対応していきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族だけで入所を決めるのではなく、本人にも施設を見学してもらった上で入所されるかどうかを決めて頂く様に努めている。 (外部評価) 入所前に利用者がホームを見学し、本人納得のうえ入所を決めている。入所後、先ずは食事時のみ他の利用者や職員と触れ合うこととし、徐々にホームに馴染めるよう配慮している。	※	本人にも見学をして頂いたり、場の雰囲気に徐々に馴染めるようにまずは食事の時間帯だけ参加して頂いたり、様々な提案を持ちかけて、利用者が安心して納得できるように努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員だけが何もかも行うのではなく、一緒に出来ることは利用者の方にもして頂き、時間の共有が出来るように心掛けている。 (外部評価) 職員は利用者の料理の手際をほめたり、食後の後片付けを一緒に行ったり、将棋の相手をする等、共に生活を楽しみ、相手から学ぶ姿勢がある。	※	利用者一人ひとりには人生の先輩であるということ念頭に置いて、できることはして頂いたり職員と一緒にいき、共に支え合っ生活しているという関係を築いていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際は、本人の最近の状態などを報告し、家族が本人の今の状態が把握できるように努めている。	※	家族の方に、毎月便りや電話等で利用者の生活状況等を報告して、本人の現在の姿を知って頂き、共に支え合っいく関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人が家族の面会を待ち望まれていたことなどを伝え、本人にとって家族はかけがえのないものであるということを知って頂けるように努めている。	※	利用者と家族の関係が途切れてしまわないように、職員が間に入ってお互いの思いを伝えたりと支援を工夫して、より良い関係が築いていけるように努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣から入所された方がほとんどいないため、馴染みの関係の継続が難しく、途切れてしまっていることが多い。家族等には、時間があれば面会に来てくださるようお願いをしている。	※	利用者にとって馴染みのある方や場所との関係が途絶えてしまわないように、利用者の思いを聴く機会を設けて、職員が間に入って関係が継続できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の様子を観ながら、孤立しないようにさりげなく声かけを行い、レクや家事などを一緒にして頂くに努めている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態、利用者同士の人間関係を把握して、職員は利用者同士のより良い関係が築いていけるようにさりげなく支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今現在はそのような方はいらっしゃらないが、今後はそういう取り組みを行っていきたい。		事業所との継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、今後どのような関わりができるのか、利用者や家族の要望等を話し合っていく、関係を継続していくように支援していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や本人と話し合い、情報収集を行い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、本人と他の入所者との会話の内容にも耳を傾けるようにしている。	※	全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように、利用者のさりげない言動も逃さないように配慮しながら、情報収集をしていくように努めていきたい。
			(外部評価) 利用者一人ひとりの楽しみ、趣味、関心などを本人や家族に聞いたり、利用者同士の会話等から把握するように努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、本人や家族からの情報収集により把握するように努めている。	※	利用者のその人らしい生活を支援していくために、これまでの生活状況を本人や家族、以前利用していた事業所等で情報収集をし、全職員で情報を共有するように努めていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式や日々の状態を記録して参考にし、職員間で話し合い、現状を把握するように努めている。	※	利用者のちょっとした変化も逃さないように、利用者との関わりを大切にして、全職員が現状を把握するように努めていきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 出来る限り本人の意志を尊重し、介護計画を作成するようにしている。本人の希望等が分からない場合は家族に聞くようにして、作成するようにしている。	※	計画作成担当者のみで介護計画を進めるのではなく、家族・本人・スタッフを交えての話し合いなども行って行きたい。
			(外部評価) 利用者や家族の思い、希望を反映し、その人らしく暮らすための介護計画作りを心がけている。計画は主に計画作成担当者としてリーダーが話し合い、作成している。	※	介護計画は限られた職員で作成するのではなく、利用者や家族の要望を反映しながら、全職員が話し合って作成することを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また、それ以外にも状態の変化した際などに見直しを行っている。	※	本人の状態に合わせた見直しを行って行きたい。
			(外部評価) 介護計画は定期的に見直すことにしているが、利用者の状況が変化した時は、その都度、見直している。見直しは計画作成担当者としてリーダーが主に行っている。	※	介護計画を見直す時は、利用者や家族の思いを取り入れ、全職員が話し合って、新たな計画を作成することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録やミーティングノートに気づき等を記入しているが、あまり実践には活かされていない。介護計画の見直しには活用している。	※	個別記録やミーティングノートに書かれていることをきちんと把握するようにスタッフに伝達する。個人記録や申し送りノートを介護計画の見直しに活用する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた際には、本人の普段の様子を説明し、要望があった際にはミーティングノートや引継ぎ時に伝達したりしている。		利用者や家族が、気軽に要望を言えるような関係や環境を築き、要望があった際には全職員で情報を共有して、柔軟な支援をして行きたい。
			(外部評価) ホームは利用者の希望する時間に入浴出来るよう対応したり、家族の急な宿泊に対応する等、柔軟な支援を心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今現在は行っていないが、ご本人の意向や必要性があれば、関係機関に協力をお願いし、支援していきたい。		本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、様々な関係機関に協力して頂けるように、関係づくりを行ってきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(外部評価) 寝たきりの方に対して、家族の希望がある場合、月に1回訪問入浴のサービスを受けている。		本人や家族の意向が伝え易い環境を作り、出来る限り意向が実現出来るように、必要であれば地域資源を活用して支援していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進委員会に参加して頂き、ご意見やアドバイス等を頂いているが、それ以外での関わりは特にない。ご本人の意向や必要性があれば、協力をお願いし、支援していきたい。	※	本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、地域包括支援センターと協働していけるように関係づくりを行ってきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞き入れ、以前からの主治医が良い場合には継続して受診・往診が出来るように支援している。 (外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医の医療を、いつでも受けられるよう、受診、往診などの支援をしている。	※	本人や家族の希望を大切に、主治医が継続出来るようにしていきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 不穏状態が続いたり、明らかに様子がおかしい場合は家族の承諾を得て、受診し相談している。	※	全職員が利用者一人ひとりの状態を把握し、変化を察知して、緊急時には家族の承諾を得て、いつでも認知症専門医に受診したり、相談できるように支援していきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は不在であり、出来ていなかった。准看護師の資格保持者が入社したので、今後は相談しながら、健康管理や医療活用を支援していきたい。	※	今後は、看護職員と相談しながら、健康管理や医療活用を支援していきたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、できるだけ早期に退院できるように、医療機関と連絡を取り合い、情報を共有したりと退院に向けて協力し合っている。		早期退院できるように、医療機関と連携を取り合い、情報を共有して協力し合っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時や家族会等で、終末期ケアは当ホームでは難しいことを伝えている。重度化した場合もその状態に応じて話し合いを行っている。 ----- (外部評価) 重度化や終末期の場合はホームとしての対応は出来ない旨、早い時期から本人や家族に説明し理解を得ている。	※	今後も入所時や家族会等で、終末期ケアについてや、重度化した場合について、その都度話し合い、方針を決めていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医療行為が必要な場合は、受け入れできないことを入所時や家族会で説明している。また、状態が変化した場合は、その都度、かかりつけ医に相談し、支持を仰いで、ケアを行っている。状態に変化があった場合は家族にも報告し、今後どうしていくかも相談している。		今後もホームで出来ること・出来ないことを家族に明確にし、かかりつけ医と連携を図りながら、ここでの生活が一日でも長く送れるように支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所前に家族及び本人と話し合い情報交換を行っている。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めている。		家族及び本人と話し合い、情報交換を行っていききたい。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) センター方式などを活用したり、本人や家族からの情報を元に、利用者の性格の把握に努め、本人の嫌な言葉等を言わない等の配慮を行っている。また、入室する際はノックを行う等プライバシーに配慮している。 ----- (外部評価) 利用者が快適に暮らせるよう言葉かけに注意し、来訪者の状況により、利用者や家族の希望で居室の名札ははずす等、利用者を大事にし、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		全職員が、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような関わりをしないように、一つひとつの言動に配慮していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日常の関わりを大切に利用者との信頼関係を築き、利用者が思いや希望を表せるように努めている。また、職員が何もかも決めてしてしまうのではなく、利用者の意志を尊重して利用者自身で決めたり納得した生活ができるよう支援している。	※	利用者と職員との信頼関係を深めていき、利用者が思いや希望を表せやすくするよう努めていきたい。また、利用者の意志を尊重して、利用者自身で決定したり納得した暮らしができるよう支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所や職員の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりに寄り添って、利用者のペースに合った支援を心掛けている。 (外部評価) 利用者は食事、おやつ等を一緒に食べる時以外は各自が自由に過ごしている。植木の手入れ、所定の場所で喫煙、トランプ、おしゃべり、海を眺め、入浴等、各利用者のペースを職員は大事にしている。	※	利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしく過ごして頂けるように、職員はゆっくりと時間をかけて関わるように心掛けて支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人が昔から着ていた服を持って来ていただき、本人に聞きながら着替え等の準備を行っている。理美容に関しては、本人の望む店等には行けていない。	※	理美容に関して、利用者の望むお店に定期的に行くようにしたい。また、場合によっては施設に理美容の方に来ていただけるように努めていきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、職員と一緒に食事の準備や食事後の後片付けを毎日行っている。 (外部評価) 献立は利用者の好み聞き、職員がたて、主食はごはん、粥、パンから選択できる仕組みである。利用者職員は共に準備、食事、片付けをしているが、黙々と行っている。	※	利用者一人ひとりの状態を配慮して、職員と一緒に食事の準備や食事、片付けを行っていききたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望により、喫煙に飲酒を好きな時に支援している。	※	病気などで制限がない限り、本人の希望が実現出来るように出来る限り支援していく。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族の方に排泄状況を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の排泄リズムを記録し、それらを元に一人ひとりにあった排泄のケアを行っている。	※	全職員が、利用者の羞恥心に配慮して、一人ひとりの排泄パターンに合った支援を行っていききたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の有無を確認して、希望がある場合には時間の希望も聞いている。出来る限りいつでも入浴出来るように支援している。 (外部評価) 利用者が入浴したい日で、希望する時間に入浴できるよう支援している。午後のおやつ後、夕食後等、利用者によって色々である。	※	職員の都合に合わせるのではなく、利用者の希望を大切に、入浴したい時にいつでも入浴出来るように支援していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前利用されていた事業所や家族、利用者から生活習慣等を聞いたり、入所してから2週間は24時間の生活リズムを調べて、利用者合った生活支援ができるように努めている。	※	利用者一人ひとりの、その時々状態を判断して、快適に休息や睡眠が取れるように支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) センター方式を活用して、本人や家族より得た情報を参考に、職員間で話し合い、個々にあった支援をしている。 (外部評価) 食事づくり、花壇の水やり、植木の手入れ、洗濯干しなどの他、将棋、トランプ、海辺の散歩、毎月の行事といった楽しみごとの支援をしている。	※	日々充実して過ごせるように、個々の心身の状況を把握して、支援していきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、個々に合った方法で、本人や事業所がお金を管理している。	※	本人や家族と話し合い、出来る限り本人が自己管理出来るよう、また必要は場合には使用出来るように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には海岸沿いを散歩している。また、買い物など、希望があれば出来る限り行くように支援している。 (外部評価) 海を見ながら砂浜を歩いたり、車いすで海岸沿いの散歩を楽しんだり、買物に出かけたり、月1回寺参りに行く等、希望を聞きながら戸外に出かける支援をしている。	※	利用者一人ひとりのその日の希望に添えるように、外出したいときに外出できるようにできる限り支援していきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎月1回石手寺に参拝に行っている。個別での対応はなかなか実施出来ていない。	※	利用者一人ひとりに、行ってみたい所等を話す機会を設けて、職員間や家族と話し合い、外出する機会を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に、電話を掛ける支援をしている。		家族や友人との繋がりを継続させるためにも、月に1回でも、家族や知人に電話を掛けられるようにしていきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問に来られた際には、居室やリビング、広いテーブルのある食堂など、好きな所で過ごしていただいている。	※	家族や馴染みの方が気軽に訪問できるように、職員と利用者が話し合い、一緒に環境づくりを行っていききたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が、身体拘束はしてはいけないと理解しており、身体拘束は行っていないが、法令等は詳しく理解していない。		運営者、全職員が、身体拘束についての法令など正しく学ぶために、事業所内での勉強会や外部での勉強会に参加したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることは拘束につながると職員が理解しており、利用者の自由な生活を支援するため、夜間帯以外は玄関に鍵をかけていない。 (外部評価) 職員は鍵をかけないことの意義を理解していて、日中は一人ひとりを見守りながらケアを行い、居室や玄関の鍵はかけていない。		利用者の自由な生活を支援するために、夜間帯以外は玄関に鍵をかけないようにする。もしも鍵をかけなければいけない場合には、本人や家族に理由を説明し了承を得るようにする。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 朝と夕方の引継ぎや、日中は職員間で声を掛け合い、利用者がどこにおられるのか、どのような状況か、把握するようにして安全に配慮している。	※	利用者のプライバシーに配慮しながら、職員間で声を掛け合い、所在や状態を把握して安全に配慮する。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や洗剤、刃物類などの注意の必要な物品は、職員間で保管場所や保管方法を話し合い、取り組んでいる。		注意の必要な物品はなくすのではなく、その都度職員間で話し合い保管方法等を取り決めていきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアル等を作成したり、ミーティングノート等で職員に注意するよう声かけを行い、事故防止に努めている。また、個々の状態に注意し、誤嚥の可能性がある入所者に関しては、食事を細かく刻んで出す等の取り組みをしている。	※	事業所内で勉強会を行うなどして、事故防止に対する意識を高めていきたい。また、事故が起こった際に適切に処置ができるように各種の研修等にも参加していきたい。入所者の状態把握を行い、危険予測を行い、事故防止に努めたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成しているが、急変時などに全職員が対応できるわけではない。	※	事業所内での勉強会や外部の研修などに積極的に参加して、全職員が対応できるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災時に対応できるようにマニュアルを作成しているが、活用は出来ていない。避難訓練を今月中に行う予定。地域との関係が密接ではないので、協力は得にくい。 (外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。また、防災対策のマニュアルも作成している。		職員会等で勉強会を行うなどして、防災の知識を高めていきたい。また、定期的に避難訓練も行っていきたい。地域の人々にも協力して頂けるような関係づくりも行っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 全家族に対して、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明することはできていない。	※	災害時に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議などを通じて、一層の努力を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝の挨拶時やBD測定時、日中の様子観察により、体調の異変等を発見するように努め、異変時には速やかに職員間で情報を共有している。	※	利用者一人ひとり日常生活の状況を把握して、ちょっとした変化も逃さないように努めて行きたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況は、各々ケースファイルに綴じており、いつでも見られるようにしている。また、ミーティングノートや記録に残し、情報を共有するようにしている。		服薬状況のみのファイルを作成し、すぐに調べることが出来るようにしていきたい。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の際には必ず汁物をつけるようにしたり、水分をあまり摂らない入所者にはその人の好む飲み物を提供するなどの工夫をしている。		体操や散歩、日常生活の中で身体を動かす機会を増やしていくように、職員間で話し合い、取り組んで行きたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声掛けやうがい、義歯の洗浄・管理など、利用者の状況に合わせた対応をしている。		利用者の個々の状態に合った支援を行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族に食事状況を聞き、情報を参考に本人や職員間で話し合い、利用者個々に合った対応をしている。 (外部評価) 食事や水分の摂取量は毎日チェックし、記録している。また、一人ひとりの状態に応じた食事介助も行っている。	※	カロリー摂取量や栄養バランスなど、栄養士などの専門的な視点からチェックも行えるようにしていきたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) マニュアルを作成しており、それに応じた対応を実行している。また、玄関先に手指消毒用の消毒液を設置している。		感染症に対しての知識を学ぶため、事業所内での勉強会や外部での勉強会に参加していきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員間で、台所や調理用具等の衛生方法を取り決めて実践している。食材に関しては、生ものは新鮮なものを購入し、早く使用するように努めている。		食中毒に関しての知識を学ぶため、事業所内での勉強会や、外部での勉強会に参加していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には階段とスロープがあり、車椅子の方でも安全に出入りができるようになっている。		四季を取り入れた装飾等したり、誰にとっても安全で親しみやすい玄関や建物の工夫ができるように、利用者と職員が話し合っている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、暗くならないように電気を付けておくように配慮したり、散歩で摘んできたお花やカレンダー等を飾ったりしている。 (外部評価) 共用空間は明るく開放的で、窓からは海が眺められる。居間には家庭的なソファを設置し、お手玉やけん玉、日めくり暦等がある。洗面所には利用者が散歩で持ち帰った草花を飾り、季節感がある。	※	職員の観点で居心地の良い空間づくりをするのではなく、利用者の観点から居心地の良い空間づくりを行うように、利用者と職員が話し合いながら工夫していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 車椅子の方でも、自由に行き来出来るようにスペースの確保を行っている。	※	利用者一人ひとりの状態に合わせて、その都度考えて共用空間を工夫してつくりあげていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	(自己評価) 事前調査や施設見学に来られた際に、本人が使い 慣れたものをなるべくお持ちいただけるように意 図も説明している。 (外部評価) 使い慣れたタンスや椅子、ベッド、テレビ、畳等 を持ち込み、本人にとって大事な時計、ぬいぐるみ、 位牌や遺影なども置き、心地よく暮らせる部屋と なっている。	※	利用者や家族とよく話し合い、本人にとって安心 して居心地よく過ごせる居室づくりができるよう に支援していきたい。
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日掃除の際に換気を行い、温度調整に関して は、利用者に寒さ暑さの有無を聞いて、冷暖房を 使用している。		職員の体感温度で決めるのではなく、利用者の状況 に応じて行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下・浴室に手すり等を設置し、安全な 移動が出来るようにしている。	※	利用者一人ひとりの身体機能に応じて、必要であ れば建物を改造したり、新たな物品の購入などを して行きたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や状態に配慮して、できること はしてもらったり、職員が一緒にしている。また、混乱 や失敗をした際にはきちんとフォローを職員がしてい る。	※	利用者一人ひとりの性格や状態を配慮して、混乱 や失敗を未然に防ぐように努めていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花や野菜を植えるなどし、入所者が園芸などを楽 しめるようにしている。		利用者一人ひとりが、自由に建物の外回りや建物 内を活用できるように、利用者から要望などを聞 いたりして支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入所時から、センター方式を活用して情報収集を行ったり、利用者との日々の関わりの中で、思いや願い、暮らし方の意向等を聞くように配慮しているため。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	時間を区切って何かをするということは決めていないので、その日その日で時間が空いた時に、リビングや居室等で一緒にゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時間を区切って何かをするということは決めていないので、利用者一人ひとりがしたいことをしたい時にその方のペースで暮らしている。しかし、中には何をしたいのか自分で決めかねる方もおられるので、そのような場合には、利用者の性格や状態に合った支援を行うようにしているため。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事準備や洗濯物を干したりたたんだり、特に家事仕事を一緒に行う際には、一段と多くの笑顔や生き生きとした表情や姿が見られているため。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外に行きたいと意思表示されたり、言葉で外に行きたいとは言われないが、玄関先に行こうとされる行動が見られれば、職員は利用者の行動を読み取り、声をかけて散歩等に行くように支援しているため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のBD測定の実施や、医療協力機関や以前からのかかりつけ医との連携により、緊急時等はすぐに対応できるようにしているため。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの状況や要望に応じることができるように、その都度職員間で話し合い、できる限り要望に添える支援を行っているため。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	度々面会や連絡がある家族とは信頼関係が築けており、様々な話ができていますが、めったに面会や連絡が取れていない家族とはまだまだ信頼関係が築けていないため。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	グループホームに馴染みのある方はたまに来られるが、地域の人々とはまだまだ交流不足であるため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己 評価) 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている ③ あまり増えていない 4 全くいない	会議はまだ3回開催した程度で、地域住民や関係機関と関わる機会をなかなか設けていないため。これから積極的に地域や関係機関とのつながりを深めていくよう努めて行きたい。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 評価) ① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でコミュニケーションがよく取れており、職場の雰囲気が良いため。また、運営者の中には職員として働いている方もおられ、職場の状況に対してよく分かっており、理解があるため。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの性格や状態に合わせた支援をするように、職員間で話し合っており、利用者の意志を尊重した関わりを行っているため、不満や苦情はあまり聞かれなため。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 評価) 1 ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や電話、家族会、アンケート等で、家族から不満や苦情を聞いたことはめったにないが、サービスに対しての喜びや感謝の言葉は多く聞かれるため。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・時間を区切って何かをするということは決められていないので、利用者一人ひとりが自分の自宅で過ごしているように、自由にしたいことをしたい時に行うことができるよう支援している。
- ・隣接した建物が周囲にないため、日当たりがよく、圧迫感もないため建物内外が開放的である。
- ・施設の前には瀬戸内海が広がり、天気の良い日には広島県が見えて景色が良い。特に2階からの眺めがとても良く、見学で来られた家族や本人もその眺めを気に入られ、その場で入所を決められる場合も多くある。
- ・利用者一人ひとりの性格や趣味、状態等に応じた外出（石手寺参拝・買い物等）や行事など、個性を尊重した支援に力を入れている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム 司
(ユニット名)	かもめ ユニット
記入者(管理者) 氏名	家里 定子
評価完了日	平成19年5月22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 『満足のいく生活をする為に、個人の自由と尊厳を守り、優しく暖かい心を持って接します』という理念をつくりあげている。 (外部評価) 事業所独自のめざすことを盛込んだ理念をつくりあげている。しかし、その理念の表現がやや抽象的で、日々のケアとも繋がりにくい。	※	利用者が、地域の中でその人らしい生活が継続できるように理念を明確にし、サービスを提供していきたい。 身近に感じられる表現で、利用者が地域の中で暮らしていくことを念頭においた理念であるよう、全職員で検討することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 目のつき易い玄関の入り口に掲示し、重要事項にも記載して明示している。 (外部評価) ホームのリーダーと職員は理念の意図するところを十分理解し、日々のケアと関連づけながら利用者の支援を行なっている。	※	職員会等で、全職員が日々理念に沿った支援ができていくかその都度再確認していく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族に対しては、入居契約時に説明しているが、地域の人々に対しては浸透できていない。	※	地域の人々にも事業所のことを知ってもらえるような取り組みを事業所内で話し合い、積極的に行っていきたい。
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などで通りかかったら挨拶をしたり、買い物等での関わり程度で、気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	※	近隣の方に気軽に立ち寄ってもらえるように、散歩等で関わる機会を利用して、声をかけるなど工夫をして努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) なかなか地元の人々と交流する機会を設けていない。 (外部評価) 秋祭りには神輿が玄関先まで来たり、近くの小学校の生徒の訪問を受け入れたりして、徐々に地元の人々との交流を深めている。	※	地区の学校や公民館等に挨拶に訪問し、積極的に行事等に参加したり参加してもらえるように交流していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方々と、交流する機会をなかなか設けていない。また、そのような話し合いもスタッフ間でできていない。		地域の方々との交流の機会を増やし、地域に貢献していけるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価)運営者、職員が、サービス評価を受ける意義を理解し、日々の運営状況を評価項目を参考に見直し、運営者と職員が話し合い、改善できる点は改善している。 (外部評価) 運営者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価をきっかけに今までのケアを振り返り、改善に取り組んでいる。	※	サービス評価を機に、改善できる点は改善していき、閉鎖的にならないよう、外部からの評価を参考に、運営者、管理者、職員が一丸となって、より良い運営をしていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、家族や地域の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。 (外部評価) 2か月に1回運営推進会議を行ない、話し合いの中からサービス向上に役立つ情報やヒントを得ている。次の会議では今回の評価について報告する予定である。	※	運営推進会議を活用して、サービスの向上に繋がったり、地域や市町村との関わりも深めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月ある地区のサービス調整会議に出席している。 (外部評価) 運営推進会議の他、月1回のサービス調整会議に出席し、市と行き来する機会づくりを心がけ、共にサービスの向上に取り組むと考えている。		今後も毎月地区のサービス調整会議に出席していき質の向上に取り組んでいきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が制度に対して理解はできてはいない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が制度に対して理解し必要な場合には活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について、全職員が理解しており、事業所では虐待について防止できている。しかし、高齢者虐待防止関連法について、全職員が認知できてはいない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が高齢者虐待関連法について理解していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に家族や利用者に会い、入居対象者であるか検討し、家族に入居申請の説明をして理解・納得を得ている。		家族や利用者にとって分かり易い説明を行うように心掛け、その都度不安や疑問などはないか確認をして、理解・納得を図っていききたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が個々に信頼しているスタッフに、意見、不満、苦情等を伝えている。	※	玄関等に相談箱等を設置して、気軽に利用者が意見、不満、苦情等を表せるようにしていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価)事業所で預かっている金銭に関しては、こづかい帳を作成して家族の方に定期的に報告している。健康状態等は、面会に来られた際や電話、毎月利用料や行事表を送る際に報告している。	※	事業所での便りを作成して、利用者の暮らしぶりや健康状態などを毎月報告できるようにしていきたい。
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は、定期的及び家族の面会時、行事表を送る時などに報告している。	※	金銭管理の報告は、金銭出納帳を家族に渡すのではなくホームで出納帳を管理し、家族にはコピーで報告するなどの工夫を期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開いたり、無記名のアンケートを郵送して、意見、不満、苦情等を聞いている。また、苦情相談機関を、事業所と外部に設けている。	※	家族が気軽に意見や不満等を表せるように、事業所内に意見箱を設置したり、家族会などの機会を設けていきたい。
			(外部評価) 家族等の意見は家族の面会時、家族会、運営推移会議、アンケート等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口をホーム内と外部に設け、重要事項説明書に明記し、説明している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、日々職員と関わる機会を設け、意見や提案を運営に反映させている。	※	職員が、運営に関して意見や提案を言い易い機会を設けていき、運営者や管理者は運営に反映させるようにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状態や生活のペースに対応出来るように、職員間で話し合い勤務を組んでいる。		利用者や家族の状態や要望に柔軟に対応ができるように、その都度職員間で話し合っって勤務を組んでいきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) やむをえず職員等が離職する場合には、後任に引き継ぎを行い、利用者や業務に影響を及ぼさないように努めている。 (外部評価) 運営者は馴染みの職員がケアすることの大事さを承知していて、職員の異動や離職を最小限にするよう努めている。交代の場合は利用者への配慮を心がけている。		職員等に入れ替わりがある際には、きちんと引継ぎを行い、利用者や業務に影響がないように努めて行きたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加するように積極的に声を掛けたり、希望を聞き入れている。 (外部評価) 外部の研修情報を職員に示し、声かけをしたり、希望を聞いて研修の参加を促している。ホーム内でも勉強会を計画している。	※	受けられる研修には積極的に参加するように情報を通知する。また、事業所内でも勉強会を設けていきたい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回の地区のサービス調整会議に出席して、ネットワーク作り、勉強会を行っている。 (外部評価) 地域で月1回行われるサービス調整会議に出席し、他の事業所との交流、情報交換を通じてホームの質向上を図っている。	※	事業所の集まりには積極的に参加していきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、時折業務に参加したり、積極的に職員と関わりを持つようにして、業務での悩みや意見を言い易い環境をつくっている。	※	定期的に親睦会や慰安旅行等を開催して、運営者や職員が気軽に話し合え、ストレスが軽減できる機会を設けていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 業務の合間等に職員と話をし、業務内容、勤務状況、意見等を聞くようにし、働きやすい環境づくりをしている。		職員の努力や実績に対して、本人に直接声をかけ称えたり、賞状または賞与を授与していきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等ゆっくり時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心して頂けるように努めている。	※	利用者にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努力していきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等ゆっくり時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心して頂けるように努力をしている。	※	家族にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努力していきたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族からの思いや悩み等の話を時間をかけて聴き、職員間で今どのような支援が必要なのか話し合っ、対応するように努めている。		本人や家族からの話を時間をかけて聴き、どのような支援を最優先に行うべきか、職員間で話し合っ、対応していきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族だけで入所を決めるのではなく、本人にも施設を見学してもらった上で入所されるかどうかを決めて頂く様に努めている。 (外部評価) 入所前に利用者がホームを見学し、本人納得のうえ入所を決めている。入所後、まずは食事時のみ他の利用者や職員と触れ合うこととし、徐々にホームに馴染めるよう配慮している。	※	本人にも見学をして頂いたり、場の雰囲気に徐々に馴染めるようにまずは食事の時間帯だけ参加して頂いたり、様々な提案を持ちかけて、利用者が安心して納得できるように努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員だけが何もかも行うのではなく、一緒に出来ることは利用者の方にもして頂き、時間の共有が出来るように心掛けている。 (外部評価) 職員は利用者の料理の手際をほめたり、食後の後片付けを一緒に行ったり、将棋の相手をする等、共に生活を楽しみ、相手から学ぶ姿勢がある。	※	利用者一人ひとりには人生の先輩であるということを念頭に置いて、できることはして頂いたり職員と一緒にいき、共に支え合っ、生活しているという関係を築いていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際は、本人の最近の状態などを報告し、家族が本人の今の状態が把握できるように努めている。	※	家族の方に、毎月便りや電話等で利用者の生活状況等を報告して、本人の現在の姿を知って頂き、共に支え合っ、関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人が家族の面会を待ち望まれていたことなどを伝え、本人にとって家族はかけがえのないものであるということを分かって頂けるように努めている。	※	利用者と家族の関係が途切れてしまわないように、職員が間に入ってお互いの思いを伝えたりと支援を工夫して、より良い関係が築いていけるように努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣から入所された方がほとんどいないため、馴染みの関係の継続が難しく、途切れてしまっていることが多い。家族等には、時間があれば面会に来てくださるようお願いをしている。	※	利用者にとって馴染みのある方や場所との関係が途絶えてしまわないように、利用者の思いを聴く機会を設けて、職員が間に入って関係が継続できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の様子を観ながら、孤立しないようにさりげなく声かけを行い、レクや家事などを一緒にして頂くに努めている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態、利用者同士の人間関係を把握して、職員は利用者同士のより良い関係が築いていけるようにさりげなく支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今現在はそのような方はいらっしゃらないが、今後はそういう取り組みを行っていきたい。		事業所との継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、今後どのような関わりができるのか、利用者や家族の要望等を話し合っている、関係を継続していくように支援していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)家族や本人と話し合い、情報収集を行い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、本人と他の入所者との会話の内容にも耳を傾けるようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの楽しみ、趣味、関心などを本人や家族に聞いたり、利用者同士の会話等から把握するように努めている。	※	全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように、利用者のさりげない言動も逃さないように配慮しながら、情報収集をしていくように努めていきたい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、本人や家族からの情報収集により把握するように努めている。	※	利用者のその人らしい生活を支援していくために、これまでの生活状況を本人や家族、以前利用していた事業所等で情報収集をし、全職員で情報を共有するように努めていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式や日々の状態を記録して参考にし、職員間で話し合い、現状を把握するように努めている。	※	利用者のちょっとした変化も逃さないように、利用者との関わりを大切にして、全職員が現状を把握するように努めていきたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 出来る限り本人の意志を尊重し、介護計画を作成するようにしている。本人の希望等が分からない場合は家族に聞くようにして、作成するようにし	※	計画作成担当者のみで介護計画を進めるのではなく、家族・本人・スタッフを交えての話し合いなども行って行きたい。
			(外部評価) 利用者や家族の思い、希望を反映し、その人らしく暮らすための介護計画作りを心がけている。計画は主に計画作成担当者とリーダーが話し合い、作成している。	※	介護計画は限られた職員で作成するのではなく、利用者や家族の要望を反映しながら、全職員が話し合って作成することを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また、それ以外にも状態の変化した際などに見直しを行っている。	※	本人の状態に合わせた見直しを行って行きたい。
			(外部評価) 介護計画は定期的に見直すことにしているが、利用者の状況が変化した時は、その都度、見直している。見直しは計画作成担当者とリーダーが主に行っている。	※	介護計画を見直す時は、利用者や家族の思いを取り入れ、全職員が話し合って、新たな計画を作成することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録やミーティングノートに気づき等を記入しているが、あまり実践には活かされていない。介護計画の見直しには活用している。	※	個別記録やミーティングノートに書かれていることをきちんと把握するようにスタッフに伝達する。個人記録や申し送りノートを介護計画の見直しに活用する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた際には、本人の普段の様子を説明し、要望があった際にはミーティングノートや引継ぎ時に伝達したりしている。		利用者や家族が、気軽に要望を言えるような関係や環境を築き、要望があった際には全職員で情報を共有して、柔軟な支援をしていきたい。
			(外部評価) ホームは利用者の希望する時間に入浴出来るよう対応したり、家族の急な宿泊に対応する等、柔軟な支援を心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今現在は行っていないが、ご本人の意向や必要性があれば、関係機関に協力をお願いし、支援していきたい。	※	本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、様々な関係機関に協力して頂けるように、関係づくりを行ってきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 寝たきりの方に対して、家族の希望がある場合、月に1回訪問入浴のサービスを受けている。		本人や家族の意向が伝え易い環境を作り、出来る限り意向が実現出来るように、必要であれば地域資源を活用して支援していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進委員会に参加して頂き、ご意見やアドバイス等を頂いているが、それ以外での関わりは特にない。ご本人の意向や必要性があれば、協力をお願いし、支援していきたい。		本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、地域包括支援センターと協働していけるように関係づくりを行ってきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞き入れ、以前からの主治医が良い場合には継続して受診・往診が出来るように支援している。 (外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医の医療を、いつでも受けられるよう、受診、往診などの支援をしている。	※	本人や家族の希望を大切に、主治医が継続出来るようにしていきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 不穏状態が続いたり、明らかに様子がおかしい場合は家族の承諾を得て、受診し相談している。	※	全職員が利用者一人ひとりの状態を把握し、変化を察知して、緊急時には家族の承諾を得て、いつでも認知症専門医に受診したり、相談できるように支援していきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は不在であり、来ていなかった。准看護師の資格保持者が入社したので、今後は相談しながら、健康管理や医療活用を支援していきたい。		今後は、看護職員と相談しながら、健康管理や医療活用を支援していきたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、できるだけ早期に退院できるように、医療機関と連絡を取り合い、情報を共有したりと退院に向けて協力し合っている。		早期退院できるように、医療機関と連携を取り合い、情報を共有して協力し合っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時や家族会等で、終末期ケアは当ホームでは難しいことを伝えている。重度化した場合もその状態に応じて話し合いを行っている。 (外部評価) 重度化や終末期の場合はホームとしての対応は出来ない旨、早い時期から本人や家族に説明し理解を得ている。	※	今後も入所時や家族会等で、終末期ケアについてや、重度化した場合について、その都度話し合い、方針を決めていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医療行為が必要な場合は、受け入れできないことを入所時や家族会で説明している。また、状態が変化した場合は、その都度、かかりつけ医に相談し、支持を仰いで、ケアを行っている。状態に変化があった場合は家族にも報告し、今後どうしていくかも相談している。		今後もホームで出来ること・出来ないことを家族に明確にし、かかりつけ医と連携を図りながら、ここでの生活が一日でも長く送れるように支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所前に家族及び本人と話し合い情報交換を行っている。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めている。		家族及び本人と話し合い、情報交換を行っていききたい。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)センター方式などを活用したり、本人や家族からの情報を元に、利用者の性格の把握に努め、本人の嫌な言葉等を言わない等の配慮を行っている。また、記録等は目の触れない所に保管している。 (外部評価) 利用者が快適に暮らせるよう言葉かけに注意し、来訪者の状況により、利用者や家族の希望で居室の名札をはずす等、利用者を大事にし、プライバシーに配慮した対応を心がけている。		全職員が、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような関わりをしないように、一つひとつの言動に配慮していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)日常の関わりを大切に利用者との信頼関係を築き、利用者が思いや希望を表せるように努めている。また、職員が何もかも決めてしまうのではなく、利用者の意志を尊重して利用者自身で決めたり納得した生活ができるよう支援している。	※	利用者と職員との信頼関係を深めていき、利用者が思いや希望を表せやすくするよう努めていきたい。また、利用者の意志を尊重して、利用者自身で決定したり納得した暮らしができるよう支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所や職員の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりに寄り添って、利用者のペースに合った支援を心掛けている。 (外部評価) 利用者は食事、おやつ等を一緒に食べる時以外は各自が自由に過ごしている。植木の手入れ、所定の場所で喫煙、トランプ、おしゃべり、海を眺め、入浴等、各利用者のペースを職員は大事にしている。	※	利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしく過ごして頂けるように、職員はゆっくりと時間をかけて関わるように心掛けて支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人が昔から着ていた服を持って来ていただき、本人に聞きながら着替え等の準備を行っている。 (外部評価) 理美容に関しては、本人の望む店等には行っていない。	※	理美容に関して、利用者の望むお店に定期的に行くようにしたい。また、場合によっては施設に理美容の方に来ていただけるように努めていきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、配膳、食器洗い、片付け等常時行っている。 (外部評価) 献立は利用者の好みを聞き、職員がたて、主食はごはん、粥、パンから選択できる仕組みである。利用者と職員は共に準備、食事、片付けをしているが、黙々と行っている。	※	利用者一人ひとりの状態を配慮して、職員と一緒に食事の準備や食事、片付けを行っていききたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望により、喫煙に飲酒を好きな時に支援している。	※	病気などで制限がない限り、本人の希望が実現出来るように出来る限り支援していく。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族の方に排泄状況を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の排泄リズムを記録し、それらを元に一人ひとりにあった排泄のケアを行っている。	※	全職員が、利用者の羞恥心に配慮して、一人ひとりの排泄パターンに合った支援を行っていききたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の有無を確認して、希望がある場合には時間の希望も聞いている。出来る限りいつでも入浴出来るように支援している。 (外部評価) 利用者が入浴したい日で、希望する時間に入浴できるよう支援している。午後のおやつ後、夕食後等、利用者によって色々である。	※	職員の都合に合わせるのではなく、利用者の希望を大切に、入浴したい時にいつでも入浴出来るように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前利用されていた事業所や家族、利用者から生活習慣等を聞いたり、入所してから2週間は24時間の生活リズムを調べて、利用者にあった生活支援ができるように努めている。	※	利用者一人ひとりの、その時々状態を判断して、快適に休息や睡眠が取れるように支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) センター方式を活用して、本人や家族より得た情報を参考に、職員間で話し合い、個々にあった支援をしている。 (外部評価) 食事づくり、花壇の水やり、植木の手入れ、洗濯干しなどの他、将棋、トランプ、海辺の散歩、毎月の行事といった楽しみごとの支援をしている。	※	日々充実して過ごせるように、個々の心身の状況を把握して、支援していきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、個々に合った方法で、本人や事業所がお金を管理している。	※	本人や家族と話し合い、出来る限り本人が自己管理出来るよう、また必要の場合には使用出来るように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には海岸沿いを散歩している。また、買い物など、希望があれば出来る限り行くように支援している。 (外部評価) 海を見ながら砂浜を歩いたり、車いすで海岸沿いの散歩を楽しんだり、買物に出かけたり、月1回寺参りに行く等、希望を聞きながら戸外に出かける支援をしている。	※	利用者一人ひとりのその日の希望に添えるように、外出したいときに外出できるようにできる限り支援していきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎月1回石手寺に参拝に行っている。個別での対応はなかなか実施出来ていない。	※	利用者一人ひとりに、行ってみたい所等を話す機会を設けて、職員間や家族と話し合い、外出する機会を支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に、電話を掛ける支援をしている。		家族や友人との繋がりを継続させるためにも、月に1回でも、家族や知人に電話を掛けられるようにしていきたい。


自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問に来られた際には、居室やリビング、広いテーブルのある食堂など、好きな所で過ごしていただいている。	※	家族や馴染みの方が気軽に訪問できるように、職員と利用者が話し合い、一緒に環境づくりを行っていききたい。
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が、身体拘束はしてはいけないと理解しており、身体拘束は行っていないが、法令等は詳しく理解していない。		運営者、全職員が、身体拘束についての法令など正しく学ぶために、事業所内での勉強会や外部での勉強会に参加したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることは拘束につながると職員が理解しており、利用者の自由な生活を支援するため、夜間帯以外は玄関に鍵をかけていない。 (外部評価) 職員は鍵をかけないことの意義を理解していて、日中は一人ひとりを見守りながらケアを行い、居室や玄関の鍵はかけていない。		利用者の自由な生活を支援するために、夜間帯以外は玄関に鍵をかけないようにする。もしも鍵をかけなければいけない場合には、本人や家族に理由を説明し了承を得るようにする。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 朝と夕方の引継ぎや、日中は職員間で声を掛け合い、利用者がどこにおられるのか、どのような状況か、把握するようにして安全に配慮している。	※	利用者のプライバシーに配慮しながら、職員間で声を掛け合い、所在や状態を把握して安全に配慮する。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や洗剤、刃物類などの注意の必要な物品は、職員間で保管場所や保管方法を話し合い、取り組んでいる。		注意の必要な物品はなくすのではなく、その都度職員間で話し合い保管方法等を取り決めていきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアル等を作成したり、ミーティングノート等で職員に注意するよう声かけを行い、事故防止に努めている。また、個々の状態に注意し、誤嚥の可能性のある入所者に関しては、食事を細かく刻んで出す等の取り組みをしている。	※	事業所内で勉強会を行うなどして、事故防止に対する意識を高めていきたい。また、事故が起こった際に適切に処置ができるように各種の研修等にも参加していきたい。入所者の状態把握を行い、危険予測を行い、事故防止に努めたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成しているが、急変時などに全職員が対応できるわけではない。	※	事業所内での勉強会や外部の研修などに積極的に参加して、全職員が対応できるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災時に対応できるようにマニュアルを作成しているが、活用は出来ていない。避難訓練を今月中に行う予定。地域との関係が密接ではないので、協力は得にくい。 (外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。また、防災対策のマニュアルも作成している。		職員会等で勉強会を行うなどして、防災の知識を高めていきたい。また、定期的に避難訓練も行っていきたい。地域の人々にも協力して頂けるような関係づくりも行っていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 全家族に対して、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明することはできていない。	※	災害時に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議などを通じて、一層の努力を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝の挨拶時やBD測定時、日中の様子観察により、体調の異変等を発見するように努め、異変時には速やかに職員間で情報を共有している。	※	利用者一人ひとり日常生活の状況を把握して、ちょっとした変化も逃さないように努めていきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況は、各々ケースファイルに綴じており、いつでも見られるようにしている。また、ミーティングノートや記録に残し、情報を共有するようにしている。		服薬状況のみのファイルを作成し、すぐに調べることが出来るようにしていきたい。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事において、食物繊維を多く含む食べ物を提供したり、散歩などで身体を動かすなどして対応している。		日常生活で体操を取り入れ、身体を動かす機会を増やしていきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声掛けやうがい、義歯の洗浄・管理など、利用者の状況に合わせた対応をしている。		利用者の個々の状態に合った支援を行っていく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族に食事状況を聞き、情報を参考に本人や職員間で話し合い、利用者個々に合った対応をしている。 (外部評価) 食事や水分の摂取量は毎日チェックし、記録している。また、一人ひとりの状態に応じた食事介助も行っている。	※	カロリー摂取量や栄養バランスなど、栄養士などの専門的な視点からチェックも行えるようにしていきたい。
				※	定期的にカロリーや栄養バランスのチェックを市の保健センターや協力医療機関の栄養士に依頼する等の対応を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成しており、それに応じた対応を実行している。また、玄関先に手指消毒用の消毒液を設置している。		感染症に対しての知識を学ぶため、事業所内での勉強会や外部での勉強会に参加していきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員間で、台所や調理用具等の衛生方法を取り決めて実践している。食材に関しては、生ものは新鮮なものを購入し、早く使用するように努めている。		食中毒に関しての知識を学ぶため、事業所内での勉強会や、外部での勉強会に参加していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には階段とスロープがあり、車椅子の方でも安全に出入りができるようになっている。		四季を取り入れた装飾等したり、誰にとっても安全で親しみやすい玄関や建物の工夫ができるように、利用者と職員が話し合っている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 2階では、海や車がすぐに眺められるので、気分転換しやすい環境である。また、利用者の趣味で収集されたお皿等を飾り、家庭的な環境づくりを心掛けている。 (外部評価) 共用空間は明るく開放的で、窓からは海が眺められる。居間には家庭的なソファを設置し、お手玉やけん玉、日めくり暦等がある。洗面所には利用者が散歩で持ち帰った草花を飾り、季節感がある。	※	職員の観点で居心地の良い空間づくりをするのではなく、利用者の観点から居心地の良い空間づくりを行うように、利用者と職員が話し合いながら工夫していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 車椅子も自由に動けるスペースの確保をしている。また、ホールにソファを置いて、利用者同士がゆくゆくと過ごせる場所も確保している。	※	利用者一人ひとりの状態に合わせて、その都度考えて共用空間を工夫してつくりあげていきたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 事前調査や施設見学に来られた際に、本人が使い慣れたものなるべくお持ちいただけるように意図も説明している。 (外部評価) 居室は、利用者の使い慣れたタンスや椅子、ベッド、テレビ、畳等を持ち込み、本人にとって大事な時計、ぬいぐるみ、位牌や遺影なども置き、心地よく暮らせる部屋となっている。	※	利用者や家族とよく話し合い、本人にとって安心して居心地よく過ごせる居室づくりができるように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日掃除の際に換気を行い、温度調整に関しては、利用者に寒さ暑さの有無を聞いて、冷暖房を使用している。		職員の体感温度で決めるのではなく、利用者の状況に応じて行っていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下・浴室に手すり等を設置し、安全な移動が出来るようにしている。	※	利用者一人ひとりの身体機能に応じて、必要であれば建物を改造したり、新たな物品の購入などをしていきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)利用者一人ひとりの性格や状態に配慮して、できることはしてもらったり、職員と一緒にしている。また、混乱や失敗をした際にはきちんとフォローを職員がしている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態を配慮して、混乱や失敗を未然に防ぐように努めていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りにある花壇や畑に、水遣りや草抜き、野菜ができた際には収穫していただいている。		利用者一人ひとりが、自由に建物の外回りや建物内を活用できるように、利用者から要望などを聞いたりして支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 事前調査や入所時に、センター方式を活用し情報収集したり、日々の関わりの中でいろいろと意向を聞くようにしているため。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 時間を区切って何かするという事は決めていないので、日々時間がある時は、リビングや居室にてゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 時間を区切って何かをするという事は決めていないので、利用者本位にしたいことをしたい時にするようにしている。また、自分が何をしたいのか決めかねている方もいるために、個々の性格、状況等に合う支援をするようにしているため。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 家事仕事（食事準備・洗濯干し、たたみ）等、一緒に行う時は多くの方の笑顔や生き生きとした姿が見られるため。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 意思表示があったり、玄関先に行こうとする態度等観られる時は、職員が利用者の行動を察し、声かけし散歩に行くように支援しているため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 毎日BD測定、以前からのかかりつけ医の連携にて、緊急時はすぐに対応できるようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 一人ひとりの要望等に応じることができるように、都度職員間で話し合いをし、要望に添える支援をしているため。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 度々面会や連絡がある家族とは、いろいろ話もできているために信頼関係はできている。めったに面会や連絡が取れていない家族とは築きしていないため。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない 地域の人達との交流はまだ不足しているが、馴染みの方はたまに来られているため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている ③あまり増えていない 4 全くいない	まだ3回行っただけで、地域住民、関係機関と関わる機会を設けていないため。これからは積極的につながりを持ち深めていくことができるように努めたい。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己評価) ①ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間のコミュニケーションはよく取れており、職場の雰囲気は良い。運営者の中で職員として働いている方もおられ、理解もあり状況もよくわかっているため。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の性格、状況に合わせた支援を行うように職員間で話し合いもあり、意思の尊重を行い関わりにあたっており、不満や苦情は聞かれないため。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会、面会、電話、アンケートなどで、不満や苦情はめったに聞かれないが、サービスにおける感謝や喜びの言葉は多く聞くことができるため。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・時間を区切って何かをするということは決められていないので、利用者一人ひとりが自分の自宅で過ごしているように、自由にしたいことをしたい時に行うことができるよう支援している。
- ・隣接した建物が周囲にないため、日当たりがよく、圧迫感もないため建物内外が開放的である。
- ・施設の前には瀬戸内海が広がり、天気の良い日には広島県が見えて景色が良い。特に2階からの眺めがとても良く、見学で来られた家族や本人もその眺めを気に入られ、その場で入所を決められる場合も多くある。
- ・利用者一人ひとりの性格や趣味、状態等に応じた外出（石手寺参拝・買い物等）や行事など、個性を尊重した支援に力を入れている。